

JAMCA ジヤムカ ニュース

The Japan Automobile Maintenance Colleges Association

No.59

2008年10月1日

発行 全国自動車大学校・整備専門学校協会
 協会事務局 〒160-0015 東京都新宿区大京町31
 ヴィッパ新宿御苑 ☎ 03-3356-7066
 編集事務局 〒125-0002 東京都葛飾区西亀有3-28-3
 ☎ 03-3601-2535 FAX 03-3601-2988
 ホームページアドレス <http://www.jamca.jp/>



自動車整備士育成における課題

学校法人日産学園専務理事
 日産自動車大学校学長 佐藤 晴紀
 全国自動車大学校・整備専門学校協会理事

社会が求める“人財”

日本の自動車保有台数は2007年12月から総台数で減少を始めている。乗用車保有はまだ伸びているということだが、保有台数が頭打ち傾向となったことは、急激にはないにしろ自動車整備需要に影響を及ぼし、ひいては私たち専門学校の事業環境の変化を意味している。

一方で自動車販売・整備事業では、その収益構造の柱を整備需要の取り込みにシフトする傾向がますます強くなってきている。こうした中で求められるものの一つに、その事業推進の担い手である人材（人財）の確保が挙げられよう。

自販連の長期ビジョンにおける対応策の一つにも「顧客接点の人材力による『店のブランド』で勝負する時代」と示されている。私たちはこのような環境の中に「人財」を送り出そうとしている。

学生が学びたかったこと

先ごろ、日産校で卒業生の声を聞いてみた。卒業後1～3年のまだ社会人経験の浅い人々を対象とし、在学中にもっと学びたかったことは何かというアンケートに答えてもらったもの。最も多かったものから順に①車両（故障）診断機器の取り扱い②お客さま応対手法やコミュニケーション手法③社会人としてのマナー④配線図の読み取り、サーキットテスターでの測定、と



なっている。このことは現在の彼らの仕事上の課題を反映していると言えるし、程度の差はあるものの就職先からの要望としても度々聞かれることでもある。

では逆にということで、学校で学んで良かったこと、役に立っていることは何かという質問にも、全く同じ傾向で回答が寄せられている。つまり挙げられた項目が現在現場で最も必要とされており、自分たちが受けてきた教育では物足りない、ということを意味している。

要望にどう応える

更にもうひとつ聞いてみた。現在仕事で目指していることは何か？ 検査員や更に上級の資格を目指すという多くの声と共に、「経験を積むことで早く一人前になりたい」という声も目立つ。人間的にも更に向上しようとしていることが窺える。彼らの要望にどう応えるべきか、求められるレベルの適切さを含めて、在学中に私たちがもっと支援できることはないのか、大きな課題として浮かび上がる。

教育の効率化

自動車整備士を養成する私たち専門学校には様々な課題がある。少子化や若者のクルマ離れといった環境下における「発掘」面での課題もあるが、入学した若者をいかに育てていくかが大きく問われる。私が担当している教科書を教えやすく編集・改訂するというのも方策の一つだが、その内容のどの部分をどのように「伝える」かがポイントとなるだろうし、更に「伝える」よりも「考えさせる」「気付かせる」教育がより重要となってくる。

しかも私たちには使う時間が限られている。優先順位をつけながら効率良く育成を図っていくことを心がけねばならない。「効率化」といえばいかにも乾燥した言葉に聞こえるが、それを「情熱」で乗り越えて、専門知識や技術の習得はもちろんのこと、創造性のある、豊かな人間性を持った若者をいかに多く育てていくことができるか、大きな課題として認識したい。自動車が好きで整備することに夢と希望を持ち、お客さまと接しながら働くことに価値を感じる若者の姿を描きながら。

CONTENTS

- 2面 自動車業界 今後どう進む
- 3面 我が校自慢
- 4・5面 女性エンジニアに高まる期待
—メーカー幹部や先輩の声—
- 6面 トピックス・アイドルタイム
- 7面 活躍卒業生・地区通信
- 8面 私の教材活用・編集後記